

水稲病害虫の発生情報について

6月8日現在の水稲病害虫の発生状況を取りまとめましたのでご活用下さい。

1 いもち病

① 気象情報「アメダス」による葉いもち発生的好適条件の判定結果

5月31日には県南部、6月4日には平坦部にいもち病の好適条件が出現しました。
(最新情報は「いもち病の発生予測」をご覧ください)

①において好適条件が出現した地域を中心にほ場調査を行った結果、表1のとおり、6月6～7日現在では、上村と三角町において葉いもち・苗いもちの病徴が確認されました。しかし、発生ほ場率や置き苗での発病率は低く、4日以降晴天が続いていることから、現時点では少ない発生状況で推移すると思われます。

6月3日に九州全域が梅雨入りしたと見られ、雨や曇りの日が多くなりますので今後の発生には注意が必要です。ただ、梅雨期に見られる激しい降雨の場合(時間雨量3mmを越える場合)には、逆に葉いもちの好適条件が出にくくなることもあります。(胞子を洗い流すため)

2 害虫関係

① 予察灯・ネットトラップへの飛来状況(ウンカ類・コブノメイガ)

この時期の飛来は本年最初のまとまったものとなります。飛来時期はほぼ平年並ですが、飛来量は平年に比べやや多くなっています。

5月下旬、鹿児島地方に大雨をもたらした低気圧は、中国大陸と九州南部を結ぶ梅雨前線を伴っており、その前線の南側には温暖で湿った強い南西風が吹いていたため、その気流に乗ってウンカ類が飛来してきたと推測されています。実際に、鹿児島県農試(鹿児島市)の報告によると、5月27日に237頭(吸引ジョンソントラップ)、30日に269頭(予察灯)のセジロウンカが捕獲されています。また、30日には2頭のトビイロウンカが捕獲されています。

本格的なウンカ類の多飛来は例年6月下旬～7月中旬になりますので、今後の飛来情報や気象情報に注意して下さい。

コブノメイガの飛来については、天草農研での追い出し調査では6月1半旬(6月1～3日)に100㎡当たり3日間の合計で5頭の飛来が確認されています。また、鹿児島農試での追い出し調査では、5月6半旬(29～31日)に100㎡当たり3日間の合計で16頭の飛来が確認されています。